

Announcements

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055679

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



会 記

植物地理・分類学会 1993年度大会

今年度の大会は去る6月5日(土)に新潟大学医療技術短期大学部で行われました。この大会に先立ち、6月4日(金)には新潟市内で「植物地理・分類研究」の編集会議と評議員会が行われました。編集会議は編集委員長以下7名の編集委員の出席のもと41巻1号の編集状況の報告と41巻2号の編集及び掲載論文の決定が行われました。この会議には編集委員長から推薦があり、1993年5月26日開催の第11回幹事会で委嘱することが承認された植田邦彦新編集委員も出席した。引き続き行われた評議員会は里見信生、河野昭一、鳴橋直弘の3評議員と清水建美会長他幹事が出席して、昨年度の活動、会計報告と今年度の活動、予算案原案について審議した。

6月5日の大会は午前中は日本植物学会北陸支部の研究発表があり、午後、当学会主催の4題の一般講演と4題の特別講演があり、その後、総会が開かれた。総会では例年通りの前年度の活動と会計報告、今年度の活動方針と予算案の他、別記にあるように学会賞を設けることなどが提案され、原案通り承認された。

総会后、会場を国家公務員共済会館「ニュー越路」に移し、和やかに懇親会が開かれた。翌日は菅名岳へのエクスカッションが催された。

植物地理・分類学会学会賞の設立について

上述のように本年の大会において学会賞を設立することが決定され、合わせて資金として会員の皆様に拠金をお願いすることが承認されました。ここに学会賞の設立のお知らせと応募要領、そして募金趣意書を収録致します。皆様にはよろしくご理解の上、ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、募金活動につきましては別記にありますように早速多くの方々からご協力を頂きました。学会賞につきましては初年度と言うこともありまして当初予定よりは若干遅れぎみではありますが、順調に選考が行われています。来春、次回大会のご案内を差し上げる頃には学会賞についてもお知らせできると思っておりますのでしばらく御猶予下さい。

植物地理・分類学会賞設立のお知らせとお願い

さる1993年6月5日に新潟大学で開催されました本年度の総会において、植物地理学、植物分類学の発展を促進するため、「植物地理・分類学会賞」を創設することが決議されました。本年度から早速受賞者の選考が下記のとおり行われますので、会員の皆様にはふるって御応募、あるいは受賞候補者の御推薦を頂きますようお願い申し上げます。

また、本総会では、学会賞が継続的に授与できる経済的基盤を築くため、次頁にありますように会員及び当学会を支援していただける方々に資金の援助を仰ぐべく、募金を行うことも承認されました。皆様の絶大なご援助をお願いすると共に、会員の皆様から当学会および学会賞にご賛同頂ける人に援助を呼びかけて頂きますようお願い申し上げます。なお、本募金による寄付金につきましては免税対象とはなりませんのでご了承下さい。

募金趣意書、郵便振替用紙、学会賞公募要領は学会本部まで御一報頂ければ郵送させていただきます。なお、学会本部住所、連絡先、振替口座名及び番号(学会費の振込先とは異なります)は下記のとおりです。

〒920-11 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座内 植物地理・分類学会

電話 0762-64-5705 FAX 0762-64-5976

郵便振替口座名「植物地理分類学会後援会」口座番号「金沢1-27698」

植物地理・分類学会賞応募要領

- 1) 名 称: 植物地理・分類学会賞
The Society's Award for Phytogeography and Taxonomy
- 2) 実施主体: 植物地理・分類学会
- 3) 目 的: 植物地理学と植物分類学の振興と育成。
- 4) 受賞人数: 年2人
- 5) 応募資格: 受賞の年度において5年以上にわたって植物地理・分類学会員であり、植物地理学あるいは植物分類学の分野において、学術的または教育的見地から、重要な成果をあげた人。
- 6) 賞の内容: 賞状及び副賞(金50,000円)を贈呈。
- 7) 応募方法: 自薦および他薦による候補者の推薦。
- 8) 提出書類: 履歴書(研究歴を明瞭に記載したもの)1通、論文リスト1部、主要論文各3部(コピー可)および業績内容を照会できる人(1名)の住所、氏名、連絡先等を明記した書類。なお、提出された書類は返却いたしません。
- 9) 応募期限: 毎年9月30日
- 10) 応募先: 〒920-11 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座内
植物地理・分類学会(必ず書留便で郵送下さい)

- 11) 選考：会長が推薦し、評議会が承認した5名の審査員による委員会が行う。審査委員会はその年の11月30日迄に受賞者を決定する。
 12) 発表：会誌「植物地理・分類研究」で選考結果とその理由を公表する。
 13) 授賞式：翌年の年次総会で行い、賞を贈呈し、受賞者は受賞講演を行う。

植物地理・分類学会募金趣意書

謹啓

貴下のますますのご発展をお慶び申し上げます。

さて、私共の「植物地理・分類学会」は、1950年「北陸の植物の会」として北陸の地（本部：金沢大学）に誕生し、現在では会員600名を擁する全国規模の学会に成長しました。北陸に生まれ育った数少ない学会の一つと言えましょう。私共の学会は、この地球上の野生植物を材料として、それらの形、生活、分布、成分などを中心に取り扱い、また、植物同志の関係、進化の様子、植物と環境との関係などを研究しております。

現在マスコミなどで話題になっていますように、貴重な野生生物がこの地球上から急激に絶滅しつつあります。そんなとき、野生植物を研究対象とする私共の学会の果たす役割は重大であるといわねばなりません。事実、私達は野生植物の多様な研究を通して地球環境保全のために努力を続けております。しかし、当学会は基礎的研究を目的としておりますため、会員の会費以外の収入はなく、そのため、学会活動は必ずしも十分にできておりません。貴下にはこの間の事情をご賢察頂き、学会運営を更に拡大発展させるために、是非とも資金援助（1口1万円）をお願いするものです。

いただきました御芳志は特別会計として通常の学会の経費とは区別し、植物地理学、植物分類学の発展を促進すべく、「植物地理・分類学会賞」の基金として使用させていただく予定です。

なにとぞ、この趣意にご賛同頂き、絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成5年6月10日

植物地理・分類学会 会長 清水建美

本件に関するお問い合わせ先：

〒920-11 金沢市角間町

金沢大学理学部植物自然史講座内

電話 0762-64-5705

郵便振替口座：名義「植物地理分類学会後援会」

植物地理・分類学会

会計幹事 綿野泰行

FAX 0762-64-5744

口座番号「金沢1-27698」

学会賞基金募金状況

上記のとおり「植物地理・分類学会賞」の基金の援助をお願いしましたところ、1993年11月4日現在、下記の方々から御協力を得ることが出来ました。深く感謝申し上げます。（敬称略、五十音順）

個人

浅井 康宏	浅野 一男	油野 靖博	池田登志男	伊沢 一男
石橋 昇	伊藤 武	井波 一雄	井上 守	今井 建樹
今井善之輔	今江 正知	岩村 政治	植田 邦彦	上野 雄規
大滝 末男	岡田 た江	荻巢 樹徳	尾崎 富衛	長田 武正
乙益 正隆	勝山 輝男	加藤 億重	金井 弘夫	河野 和博
川原 捷彰	鬼川 徹	木下 覚	木下 慶二	木村 晴夫
倉成 靖任	黒崎 史平	黒野 俊夫	後藤 稔治	粉川 昭平
小林 義雄	小林 純子	小林 泰浩	小林 繁	佐々木 寧
佐々木 豊	指田 豊	佐藤三千代	沢 信史	清水 建美
菅野 修三	鈴木 兵二	須藤志成幸	染野 邦夫	高尾 静代
高須 英樹	高橋 弘	竹迫 賢一	武田 義明	竹中 則夫
橋 ヒサ子	立石 庸一	田中 昭彦	棚谷 満広	田村 道夫
友成 孟宏	長井 真隆	中込 司郎	中山 洌	西田 治文
能城 修一	長谷川義人	長谷川順一	長谷部光泰	早川 利之
林 一彦	原 慶太郎	原子 一男	藤原 一絵	藤原 陸夫
細井幸兵衛	堀江 健二	政木 淑人	真崎 久	真崎 博
正宗 行人	松井 浩	水野 瑞夫	南 正祝	村上 哲明
百原 新	安 昌美	山中 二男	山森 茂	吉井 亮一
吉野 智雄	吉年 祐一	和気 俊郎	和田 清	

(以上94名)

団体

朝日新聞社週刊百科編集部 石川テレビ放送 平凡社 前田印刷株式会社 (以上4団体)

植物地理・分類学会賞基金収支決算報告 (1993年11月4日現在)

収入		
拠金総額 (98件)		1,190,000 円
合 計		1,190,000 円
支出		
通 信 費		6,324 円
雑 費 (振替手数料)		6,350 円
合 計		12,674 円
差引合計		1,177,326 円

新入会員 (1993年5月～1993年10月)

5月18日	後藤 義明	〒612	京都市伏見区桃山町永井久太郎官有地	森林総合研究所関西支所
5月24日	堀内 和美	〒780	高知市永国寺5-15	高知女子大学生生活理学科
5月27日	牧 雅之	〒153	目黒区駒場3-8-1	東京大学教養学部生物学教室
6月1日	須山 知香	〒441-31	豊橋市大岩町字大穴1-238	豊橋市自然史博物館
6月1日	奥田 浩之	〒486	春日井市黒銚町字黒銚145-4	
6月7日	三浦 康男	〒465	名古屋市名東区亀の井1-176	
7月12日	佐藤 創	〒098-28	北海道中川郡中川町字誉300	北海道立林業試験場道北支場
10月31日	佐藤洋一郎	〒411	三島市谷田1-111	国立遺伝学研究所

退会会員 (1993年5月～1993年10月)

井田礼次郎	〒810	福岡市中央区天神5-7-12
正宗 敬敬	〒250	小田原市入生田423 (死去)
坂口 清一	〒760	高松市番町3-19-4 (死去)

住所・氏名変更及び訂正 (1993年5月～1993年10月)

安溪 貴子	〒753	山口市平井873-3 → 〒689-23	鳥取県東伯郡東伯町笠見42
池田登志男	〒384-01	佐久市大字平賀5325-1	佐久市立佐久城山小学校 → 〒389-02 長野県北佐久郡御代田町向原4106-201
池原 直樹	〒904-21	沖縄県沖縄市字松本4302	美里高等学校 → 〒904-03 沖縄県読谷村伊良皆198 読谷高等学校
石須 秀知	〒930	富山市奥田新町13-11 → 〒937	魚津市釈迦堂814 魚津埋没林博物館
金崎 公哉	〒228	神奈川県座間市立野台651-10 → 〒228	神奈川県座間市立野台3-36-10
柏谷 博之	〒169	新宿区百人町3-23-1	国立科学博物館 → 〒305 つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館筑波実験植物園
国澤 高明	〒960-02	福島市飯坂町平野字壇ノ東1	福島県果樹試験場 → 〒960-06 福島県伊達郡保原町字赤橋71
村田 威夫	〒281	千葉市柏井町1452	柏井高等学校 → 〒262 千葉市柏井町1452 柏井高等学校
中新田育子	〒206	東京都稲城市向陽台4-4-1	ビュータワーズ3-801 小林方 → 〒113 文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地理学教室
中田 政司	〒724	東広島市鏡山1-3-1	広島大学理学部植物学教室 → 〒939-27 富山県婦負郡婦中町上轡田42 富山県植物公園中央植物園
名倉 智道	〒431-04	湖西市入会地1-646 → 〒431-04	湖西市梅田130
成ヶ沢久仁子	〒257	秦野市鶴巻498-17 → 〒983	仙台市宮城野区岩切3-12-16
大澤 達郎	〒003	札幌市白石区川北2261	札幌白石高校 → 〒049-01 北海道上磯郡上磯町常盤1-6-2-101
津田 智	〒501-11	岐阜市柳戸1-1	岐阜大学農学部附属山地開発研究施設 → 〒501-11 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学附属流域環境研究センター
上田 豊	〒463	名古屋市守山区森孝新田	森孝住宅1-506 → 〒463 名古屋市守山区森孝東2-814 森孝住宅1-506
植村 滋	〒060	札幌市北区北10条西5丁目	北海道大学大学院環境科学研究科 → 〒060 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学部附属演習林

アジア学術会議 11月に開催

平成5年10月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、アジア学術会議、本年6月に閣議了解を得ました平成6年度日本学術会議共同主催国際会議の概要及び日本学術会議が本年度において実施する地域活性化施策推進事業等についてお知らせします。

アジア学術会議について

- 1 日本学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者を東京に招き、本年11月15日(月)から18日(木)までの4日間、アジア学術会議を開催します。
- 2 アジア地域との学術分野における交流の重要性については、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」(平成5年4月、日本学術会議第116回総会採択)においても指摘されたところでありますが(「日本学術会議だより」(No.29)参照)、地理的、歴史的、文化的に多くの共通点を持つ近隣諸国間の交流は、それぞれの国の学術の発展、ひいてはその地域全体の学術の発展にとって極めて重要なことであります。
- 3 このアジア学術会議は、特定分野に限らない全学問領域にわたるアジア地域の科学者による連携・協力のための初の国際会議であり、その意義は極めて大きく、日本学術会議では、会議の成果をあげるため、既に本年4月、アジア学術会議実行委員会(委員長:渡邊格・日本学術会議副会長、副委員長:川田侃・同副会長)を設置し、関係学協会の御協力の下、開催に向け、鋭意、準備を進めているところです。

会議の概要は以下のとおりです。

- (1) 主催
日本学術会議
- (2) 日程
11月15日(月)開会式(基調講演、特別講演等)
歓迎レセプション
16日(火)会議(自由討議)
17日(水)視察(筑波研究学園都市)
18日(木)会議(自由討議)、閉会式
- (3) 会場
三田共用会議所
〔東京都港区三田2-1-8〕
〔電話 03-3455-7591〕
- (4) 参加者
インド、インドネシア、シンガポール、タイ、大韓民国、中華人民共和国、日本、フィリピン、マレーシアの各国の学術推進機関(アカデミー等)から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者21名

(日本からは、近藤次郎日本学術会議会長及び川田侃同副会長が出席の予定)

(5) 議題

「アジア地域における学術の発展とそのための連携・協力について」

平成5年度地域活性化施策推進事業の実施について —地域の過去、現在、未来を探る—

東京一極集中を是正し、国土の均衡ある発展を図るため、地域を活性化することの必要性が叫ばれています。この中で、地域において、情報発信能力を高め、産業技術の進歩、暮らしの質的向上を促す総合的な学術研究の力の向上は、「豊かな国民生活」を実現するために不可欠のことであり、また、国際的に開かれた地域を形成するためにも有効なことと考えられます。このため、日本学術会議では、本年度において、国土庁の地域活性化施策推進費を活用して、全国3か所での地域における産学官の協力による公開フォーラムの実施とその報告書作成を柱とする「ふるさと学会」開催事業を実施することとしました。

本事業は、地域を対象とする学術研究の成果を人文、社会、自然科学を網羅して総合的に取りまとめ、その地域の過去の歴史、現在の状態、将来の予想を明らかにし、地域のアイデンティティと将来像を考える一助とするとともに、この過程において、地域の産学官の連携や学術研究者と地域住民の交流をも促進することを狙いとするモデル事業と位置付けています。

平成6年度に開催する日本学術会議 共同主催国際会議

日本学術会議は、昭和28年9月の国際理論物理学学会議の開催以来、平成5年度までに135件の国際会議を関係の学術研究団体と共同して開催し、我が国のみならず世界の学術水準の向上に努めてきたところです。

平成6年度においても、次表の6会議を共同主催することとし、本年6月25日、これらの国際会議の開催とこれについて所要の措置を講ずる旨の閣議了解を得ました。

また、本年は、平成8年(1996年)度開催分の国際会議について共同主催の申請を受け付けており、締切りは12月10日です。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局学術部情報国際課国際会議係
電話03-3403-6291(内)254, 255

平成6年(1994年)度日本学術会議・国内学術研究団体共同主催国際会議概要

会議名	第8回国際神経・筋学会	第24回国際園芸学会	第30回錯体化学国際会議
母体機関	世界神経連合	国際園芸学会	国際純正・応用化学連合
共催団体	日本神経学会	園芸学会	(社)日本化学会 錯体化学研究会
参加予定人数 参加予定国数	国外 1,100人 国内 800人 計 1,900人〔41か国・2地域〕	国外 1,000人 国内 750人 計 1,750人〔88か国・2地域〕	国外 300人 国内 700人 計 1,000人〔46か国・2地域〕
開催時期	7月10日～15日(6日間)	8月21日～27日(7日間)	7月24日～29日(6日間)
開催場所	京都市(国立京都国際会館)	京都市(国立京都国際会館)	京都市(国立京都国際会館)
開催間隔	4年ごと	4年ごと	1ないし2年ごと
組織委員会 委員長	国立精神・神経センター 名誉総長 里吉 栄二郎	東京農業大学農学部 教授 岩田 正 利	(準備委員会代表者)立命館大学理工学部 教授 大瀧 仁志

会議名	第21回世界心電学会	第47回国際情報ドキュメンテーション 連盟総会	第2回国際病態生理学会総会
母体機関	世界心電学会	国際情報ドキュメンテーション 連盟	国際病態生理学会
共催団体	日本心電学会 (財)日本心臓財団	(社)情報処理学会 (社)情報科学技術協会 情報知識学会	日本病態生理学会
参加予定人数 参加予定国数	国外 500人 国内 1,000人 計 1,500人〔30か国〕	国外 400人 国内 800人 計 1,200人〔55か国・1地域〕	国外 500人 国内 800人 計 1,300人〔62か国・2地域〕
開催時期	7月3日～7日(5日間)	10月2日～9日(8日間)	11月19日～24日(6日間)
開催場所	横浜市(横浜国際平和会議場)	大宮市(大宮ソニックシティ)	京都市(国立京都国際会館)
開催間隔	毎年	2年ごと	4年ごと
組織委員会 委員長	国立療養所中野病院 病院長 春見 建 一	国文学研究資料館 客員教授 藤原 鎖 男	日本臓器製薬株式会社生物活性科学研究所 所長 大村 裕

日本学術会議主催公開講演会

—— 女性科学研究者に期待する ——

日本学術会議は、学術の成果を国民に直接還元するための活動として、日本学術会議会員が講師となって、市民を対象に年3回公開講演会を開催しています。

この度、次の公開講演会を開催しますので、お知らせします。多数の方々の御来場をお待ちしています。

- (1) 日時 平成5年11月26日(金) 13:00～16:30
- (2) 会場 日本学術会議講堂
(地下鉄千代田線「乃木坂駅」下車徒歩1分)
- (3) テーマ 「女性科学研究者に期待する」

(4) 演題及び演者

- ・女性科学研究者問題に関する日本学術会議の取組
須藤 一(第5部会員, 東北学院大学工学部教授)
- ・女性学ジェンダー論の発展と役割
加藤春恵子(第1部会員, 東京女子大学現代文化学部教授)
- ・自然科学分野に見られる女性進出とこれに伴う諸問題
本間 慎(第6部会員, 東京農工大学農学部教授)

・女性科学研究者の地位向上と基盤整備(スウェーデンを例として)

一番ヶ瀬康子(第1部会員, 日本女子大学人間社会学部長)

〔申込方法〕

聴講(入場無料)を希望される方は、はがきに、郵便番号、住所、氏名を明記し、11月12日までに下記までお申し込みください(複数人の連記可、FAX送付可)。締切り後も、席に余裕があれば、受け付けますので、下記までお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局「公開講演会係」

TEL 03-3403-6291(代) 内線228

FAX 03-3403-6224

「日本学術会議だより」について御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291